

子宮がん検診事業評価の取組み ～市町の課題を圏域の取組みへ～

東部厚生環境事務所・東部保健所

○坂本恵子 澤岡千恵子 佐藤博子
米田哲幸 河本良之 井上義文 清水良昭

1 はじめに

国の「がん対策基本推進計画」において、がん検診の目標は「受診率を5年以内に50%以上とする」、「すべての市町村において、精度管理・事業評価が実施されるとともに、科学的根拠に基づくがん検診が実施される」ことである。

「広島県がん対策推進計画」においても、「がん検診の受診率の向上」は重点的な取組課題である。

尾三地域保健対策協議会（以下「尾三地对協」という。）では、市町が実施するがん検診のうち、特に20～30歳代の若い年代で増加している子宮頸がんについて、子宮がん検診の受診率の向上及び質の高い検診が実施できる体制整備を図ることを目的として、子宮がん検診事業評価ワーキング会議（以下「ワーキング会議」という。）を設置し、平成22～23年度の2年間、子宮がん検診の事業評価に関する取組みを行っているので、その概要について報告する。

2 ワーキング会議設置までの経過

年月	内 容
H21年度	9 三原市から、がん検診の精度管理に関する相談を受理⇒市単独での検討は困難 【市町の課題】
	10 ↓
	11 市町・医療政策課等と協議 ⇒ 尾三地对協で取組む方向で調整 【圏域の課題】
	12 産婦人科医会・各地区医師会・医療政策課等関係機関と調整
	1
	2 県の「子宮がん検診精度向上モデル事業」として委託実施が決定
	3 尾三地对協のH22～23年度事業に決定 県地对協「子宮がん検診特別推進委員会」との連携が決定
H22年度	4 ※「子宮がん検診実施状況調査」を実施
	5
	6 ◆尾三地对協に「子宮がん検診事業評価ワーキング会議」を設置

3 市町が実施する子宮頸がん検診の現状

市町の実施する子宮がん検診は、国の「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」に基づき実施されている。

平成22年度の子宮頸がん検診の受診率は各市町で向上している。三原市では、21年度と比較して大きく改善しており、尾道市では、低下から横ばい傾向であったものが、22年度は上昇に転じている。また、世羅町においては、横ばいから上向き傾向となっている。

表 子宮頸がん検診受診率

（単位：％）

区分	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
広島県	15.4	18.6	15.8	18.7	28.5
三原市	17.0	21.8	20.3	26.5	34.0
尾道市	15.2	12.2	11.7	12.8	18.8
世羅町	15.3	15.9	12.8	16.4	17.4

出典：H18～21年度 地域保健・健康増進事業報告（厚生労働省）

H22年度 対象者数の算定方法を統一した広島県独自集計による速報値

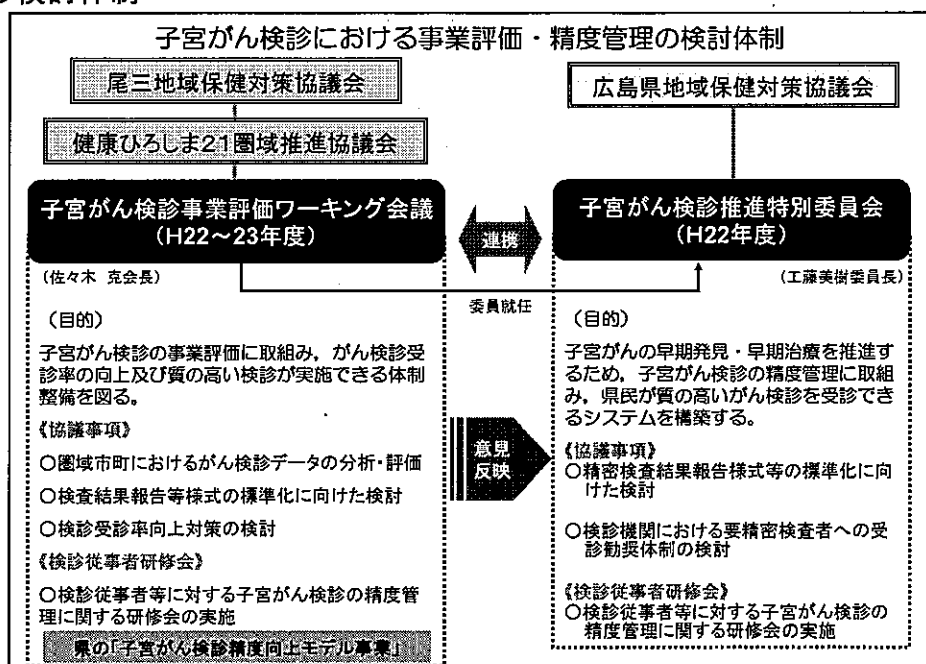
受診者の年齢別割合は、三原市においては30～60歳の各年代が同じ割合となっている。尾道市においては平成22年度には20～30歳代の受診者の割合が増えている。世羅町においては、受診者の半数が50歳代以上となっている。

検診の体制別・年齢別受診者の割合は、20～30歳代の若年者層ではほとんどが個別検診を受診しており、全年齢層においても三原市と尾道市では個別検診が4分の3を占めている。世羅町では平成22年度は個別検診が月1回であったため、ほとんどが集団検診となっているが、平成23年度からほぼ毎日医療機関検診が受診できることから、個別検診が増加するものと思われる。

平成21年度から始まった子宮頸がん無料クーポンの平成22年度の利用率は、19.0～27.5%であるが、20歳代では低くなっている。

4 子宮がん検診事業評価の検討体制

本事業は県の「子宮がん検診精度向上モデル事業」として実施し、平成22年度においては広島県地域保健対策協議会子宮がん検診推進特別委員会（以下「県地対協委員会」という。）と連携して事業を推進した。



5 取組状況

重点課題・主な取組		平成22年度取組	平成23年度取組
質の高い検診が実施できる体制整備	①検診結果報告書等様式の標準化	■尾三圏域標準様式の作成 ■各市町において、標準様式の活用に向けた調整	■尾三圏域標準様式の活用に関する効果等の検証
	②検診従事者等に対する精度管理に関する研修会	■子宮がん検診従事者研修会 ・市町・検診機関担当者等（10/22） ・細胞検査士等（2/27）	■子宮がん検診従事者研修会 ・医師等（11/2） ・細胞検査士等（2/19）
	③要精密検査者等へのフォロー体制の構築		■要精密検査者への精検受診勧奨 ■精密検査通知書の検討
がん検診受診率の向上	①普及啓発の推進	■「子宮頸がん検診ガイドBOOK」の作成及びこれを活用した普及啓発⇒職域等との連携、若年者層へターゲットを絞った啓発	■「子宮頸がん検診ガイドBOOK」を活用した普及啓発⇒職域へのアプローチ（企業等と連携した普及啓発の推進）
	②効果的な受診勧奨の推進	■20～29歳への個別受診勧奨通知（三原市） ■未受診者への受診勧奨通知（世羅町）	■市町における個別受診勧奨の推進 ■検診未受診者への重点的な取組 ■重点的に普及啓発に取組むターゲットの設定及び受診勧奨方法の検討
	③受診しやすい環境づくり	■市外医療機関での個別検診受診体制の整備（尾道市）	■個別検診の日数増（世羅町）

(1) 質の高い検診が実施できる体制整備

① 子宮がん検診・子宮頸がん精密検査に係る様式の標準化

様式標準化の目的

i 検診の精度管理

- ・平成 21 年度からの子宮頸部細胞診報告様式の改訂（日本産婦人科医会）に準拠
「ベセスダシステム 2001 準拠子宮頸部細胞診報告様式」
- ・検診精度の均てん化⇒どこで受診しても同等の検診が受けられる

ii 検診従事者の負担の軽減

- ・医師や細胞検査士が検診結果を記入しやすい
- ・市町等において、検診結果の把握・データ管理がしやすい

ワーキング会議において「尾三圏域標準様式」を作成し、平成 23 年度から市町の個別検診で活用されている。

なお、県地対協委員会において、「尾三圏域標準様式」を基に、子宮頸がん・体がん検診に係る「広島県標準様式」が作成された。

② 検診従事者等に対する精度管理に関する研修会の実施

子宮がん検診の精度向上により、より精度の高い検診を実施するため、子宮がん検診に従事する医師・細胞検査士・市町担当者等の知識・技術の向上を目的とした研修会を開催した。

③ 要精密検査者のフォロー体制の検討

要精密検査となった人が確実に精検を受診できる要精密検査者等のフォロー体制について検討を行った。

要精密検査者が精密検査の必要性を十分認識していない現状があることから、「子宮頸がん精密検査受診のお知らせ」に精密検査受診の必要性を明記し修正を行った。

(2) がん検診受診率の向上

① 普及啓発の推進

○ 若年者層への情報提供

受診率の低い若年者層への受診勧奨が必要なことから、ワーキング会議において若年者層へターゲットを絞った啓発の取組みについて検討を行い、子宮頸がん検診に関する啓発資料「子宮頸がん検診ガイドBOOK」（以下「ガイドブック」という。）を作成し、医療機関、市町、事業所や若い女性が利用する店舗等において、ガイドブックを活用した受診勧奨を行っているところである。

○ 職域等と連携した普及啓発

多くの企業では、子宮がん検診は検診項目に含まれていない、又はオプション検診として実施されていることから、事業主・従業員への普及啓発も重要となってくる。

そこで、ガイドブックを広島県労働基準協会三原支部及び尾道支部のメーリングリストを活用し会員へ周知し、事業所及び地域産業保健センターにおいて活用された。

② 効果的な受診勧奨の推進

質の高い検診をより多くの人を受診してこそ、検診の効果が現れるものとする。このため受診勧奨については、市町において全戸通知、広報誌、個人通知など様々な取組みが行われている。

より効果のある受診勧奨の方法として、受診率向上効果が認められている「Call-recall system」（未受診者への個人通知等の受診勧奨）等の推進について検討し、平成 23 年度には市町において取組まれた。

③ 受診しやすい環境づくり

検診情報の提供、通知方法や申込み方法、検診の実施方法など受診しやすい検診体制の見直しを行った。

その結果、受診者の利便性向上のため、個別検診の受診医療機関の拡充（圏域外の医療機関で受診できる体制整備）や個別検診の日数の増加等が図られ、若い年齢層の受診者が増加した。

6 今後の課題及びまとめ

(1) 質の高い検診が実施できる体制整備

① 子宮頸がん・体がん検診に係る「広島県標準様式」を用いた検診の実施

受診者への検診結果の通知内容は検診機関によって違っており、精密検査を受診する際に精密検査機関が把握できる検診結果データに格差があるのが現状である。

検診機関と精密検査機関のデータの提供を円滑にするとともに、検診精度の均てん化を図るため「広島県標準様式」の活用を推進する必要がある。

② 要精密検査者のフォロー体制の充実

要精密検査者が確実に精密検査を受診するために、厚生労働省の「がん検診事業の評価に関する委員会」が提案するプロセス指標を用いた評価を行い、精検の受診の有無、結果等の情報を市町が把握し、未受診者に対しては精検受診勧奨を実施するフォロー体制の充実を図る必要がある。

③ 子宮頸がん予防ワクチン（以下「ワクチン」という。）接種と子宮頸がん検診受診による子宮頸がんの予防

ワクチンの接種と定期的な子宮頸がん検診受診によって、ほぼ 100% の子宮頸がんの予防が見込まれるが、ワクチンを接種すれば子宮頸がん検診を受診する必要はないという誤解もある。

また、医療機関からは「ワクチンの接種率が低い」という声も聞かれる。

このことから、ワクチンに関する正しい理解と子宮頸がん検診の受診啓発が求められている。

(2) がん検診受診率の向上

① 啓発活動と情報提供の充実

ワーキング会議において作成したガイドブックは、主に市町の乳幼児健診の保護者、ワクチン接種で医療機関を受診した者及び事業所の若い層を中心に配付しているが、子宮頸がん検診の受診率を上げるためには、分かりやすい情報を確実に伝えることが重要である。

○ 医師・看護師等医療従事者からの受診勧奨

「子宮頸がん検診に関する調査報告書」（2008 年、子宮頸がんから女性を守るための研究会）（以下「調査報告書」という。）によると、子宮頸がんについて〔最も影響力のある情報源〕として、定期受診者は医師等医療関係者をあげる割合が高くなっている。“信頼の大きさ”と“検診対象者に直接働きかけられる”立場にある医師・看護師等の医療従事者による受診の勧奨は効果が大きいと考えられる。

○ 子宮頸がん検診に関する“情報不足”“知識不足”の解消

前述の調査報告書によると、未受診者が受診しない理由は「時間がない、面倒」「費用がかかる」に次いで、検診に関する「情報不足（手続きの仕方がわからない、検診の方法がわからない、通知がない、検診があることを知らない）」や、「知識不足（症状がないので必要ない、自分の年齢では罹らない）」が上位にあげられている。

また、情報提供側の市町と、受け手との認知状況にはズレが生じており、市町が“提供した”と思うほど受け手には認知されていないというギャップがあることを意識し、そのズレを小さくするような工夫が必要である。

② 市町における受診勧奨の推進

子宮頸がんの死亡率、罹患率等のデータを基に重点的に取組む年齢層を設定し、その年齢層に応じた普及啓発の方法を検討するなど効果的な受診勧奨方法が課題である。

また、未受診者の中には、申込み方法や受診場所を知らない等の情報不足が原因で受診していない場合が考えられることから、未受診者に対する重点的な情報提供も必要である。

○ 個別受診勧奨の推進

「Call-recall system」（未受診者への個人通知等の受診勧奨）については、受診率向上効果(*)が認められている。

※米国疾病対策予防センター（CDC）の Community Guide, 2009 年－「手紙や電話等による勧奨＋付加情報 or 未受診者再勧奨」の受診率向上効果 15.5%

未受診者の把握が可能な“無料クーポン対象者”に対して「Call-recall system」を実施し、受診勧奨の方法や勧奨資料の内容等の効果検証によって、市町の実情に応じた個別受診勧奨が推進されるよう取組むことが課題である。

③ 受診しやすい環境づくり

検診体制別の受診者をみると、個別検診が4分の3を占めており、特に20歳代から30歳代においては受診者のほとんどが個別検診の受診者となっており、年齢が若いほど個別検診を受診する傾向がみられる。

市町においては、各自治体が市外の医療機関等の検診実施施設と個別検診の委託契約を結ぶなど、受診医療機関の拡大に努めているところである。妊婦健診や予防接種と同様に、全県での受診が可能になれば、受診者の利便性が図られ受診機会が増えると考えられる。

しかし、全県での広域契約には、「各自治体によって検診費用が違う」「各自治体によって結果報告様式が違う」「各自治体への検診費用の請求事務や結果報告など医療機関の負担が増加する」等の課題も多いことから、受診しやすいがん検診の体制づくりに向けた検討が必要である。

県の「子宮がん検診精度向上モデル事業」として実施する子宮がん検診の事業評価は今年度で終了し、本事業により明らかになった課題については、各機関において取組みを推進することになる。

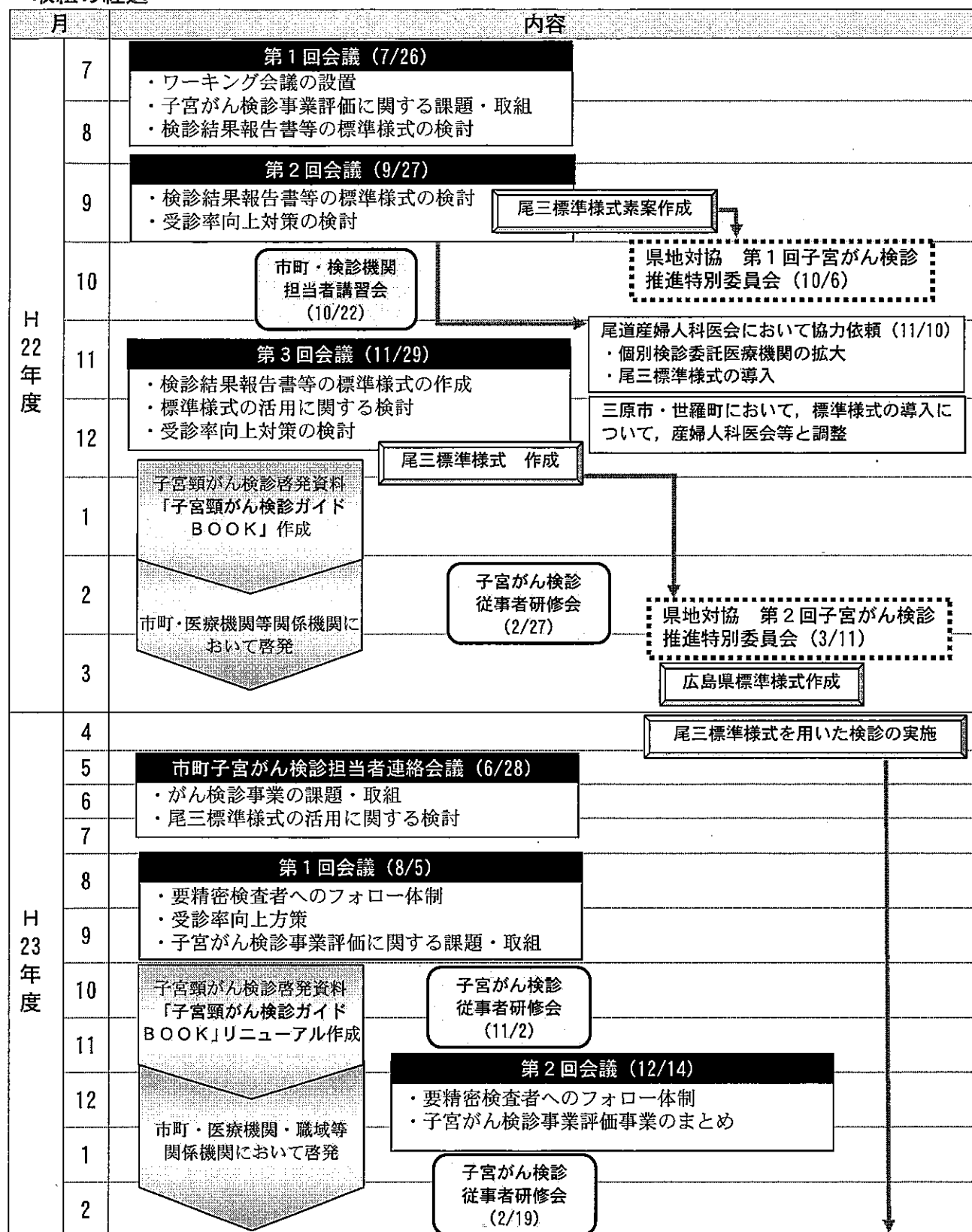
来年度以降、尾三地対協において各市町や医療機関等の取組状況等の検証、評価を行い、もって子宮がん検診を推進していきたいと考えている。

7 おわりに

市町の健康課題について圏域で取組むことにより、検診結果報告書等の標準様式の活用や若年者層への受診啓発等広く関係機関と連携した取組みが推進できた。

今後も、専門的・広域的に検討を要する事項については、市町や医療機関等関係機関と連携し圏域の課題として取組みたい。

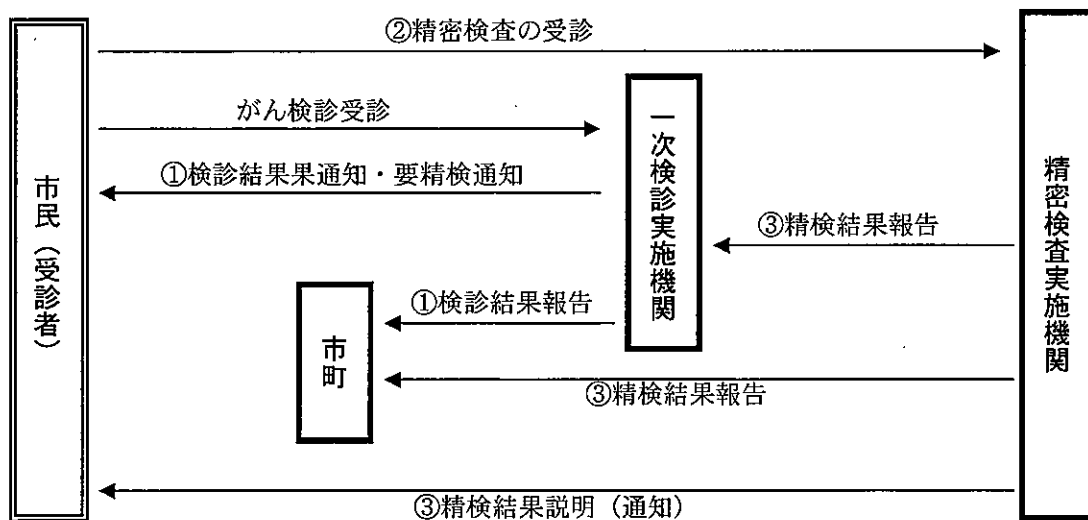
取組の経過



子宮がん検診・子宮頸がん精密検査に係る各種様式の使用法

番号	通知・報告先	様式名	備考
①検診結果通知・要精密検査通知	市民・町民(受診者)		
	要精密検査者以外	○子宮がん検診受診票兼結果報告書[3枚複写]	
	要精密検査者	○子宮がん検診受診票兼結果報告書[3枚複写] ○子宮頸がん精密検査受診のお知らせ ○子宮頸がん精密検査依頼書兼結果報告書[3枚複写]	3枚目を送付
	一次検診実施機関	○子宮がん検診受診票兼結果報告書[3枚複写]	1枚目を保存
	三原市・尾道市・世羅町	○子宮がん検診受診票兼結果報告書[3枚複写]	2枚目を送付
②精密検査受診	精密検査実施機関	○子宮頸がん精密検査受診のお知らせ ○子宮頸がん精密検査依頼書兼結果報告書	
③精密検査結果報告	精密検査実施機関	○子宮頸がん精密検査依頼書兼結果報告書[3枚複写]	1枚目を保存
	一次検診実施機関	○子宮頸がん精密検査依頼書兼結果報告書[3枚複写]	2枚目を送付
	三原市・尾道市・世羅町	○子宮頸がん精密検査依頼書兼結果報告書[3枚複写]	3枚目を送付

《がん検診実施フロー》



①検診施設控

子宮がん検診受診票 兼 結果報告書

〇〇市(町)子宮がん検診を申し込みます。
この受診票と検診結果及び精密検査の結果が医療機関から〇〇市(町)へ返送されることを了承します。

※本枠のなかを記入してください。

※この欄は記入しないでください。

〇〇市(町)子宮がん検診申込 兼 同意書(本人署名)			
〒	市	町	番地
丁目			
フリガナ			
名前		様	
生年月日		歳	
電話番号			

受付No.	
受診年月日	年 月 日
医療機関名	
(TEL)	() - () - ()
医師名	

□子宮頸がん検診無料クーポン券対象者

問 診 内 容

子宮がん検診 受診歴	☐ 受けたことがある(平成 年) ☐ 受けたことがない ☐ 検診結果 ☐ 異常あり () ☐ 異常なし
月 経	最近の月経 月 日 から 日間 閉経 ☐ なし ☐ あり (歳)
自 覚 症 状 (最近6ヶ月以内)	月経トラブル ☐ なし ☐ あり: ☐ 不規則※注1 ☐ 出血量が多い※注1 ☐ 痛みが激しい) 不正出血 ☐ なし ☐ あり※注1 かゆみ ☐ なし ☐ あり おりもの ☐ なし ☐ あり おりものの着色 ☐ なし ☐ あり: ☐ 白色 ☐ 黄色 ☐ 褐色※注1 その他 ()
妊 娠 歴	妊娠 (回) 分娩 (回)
治 療 の 経 験	☐ なし ☐ あり ()

注1) 該当する症状(不正出血、褐色帯下、月経異常など)を認める方は、子宮体がん検診の該当者です。

注2) 内診の結果、必要となった検査については、別途料金がかかります。

子宮頸がん検診結果

標本の種類		標本の適否	判定可能・不可能
標本作成法 ☐ 直接塗抹法 ☐ 液体検体法 ☐ その他 ()	採取器具 ☐ サイトピック ☐ ヘラ ☐ ブラシ ☐ 綿棒 ☐ その他 ()	☐ 適正 ☐ 不適正	☐ 判定可能 ☐ 判定不可能
子宮頸部細胞診判定			
ベセスダ分類	☐ NILM ☐ ASC-US ☐ ASC-H ☐ LSIL ☐ HSIL ☐ SCC ☐ AGC ☐ AIS ☐ Adenocarcinoma ☐ Other malign		
日母分類	☐ Class I ☐ Class II ☐ Class IIIa ☐ Class IIIb ☐ Class IV ☐ Class V		
視診・内診所見	☐ 異常なし ☐ 子宮肥大 ☐ その他 ()		
子宮頸がん検診判定結果	☐ 精密検査不要 定期検診を受けてください ☐ 要精密検査		
その他の婦人科疾患	☐ なし ☐ あり ()		

子宮体がん検診結果

子宮体部細胞診判定	☐ 陰性 ☐ 疑陽性 ☐ 陽性
子宮体がん検診判定結果	☐ 精密検査不要 ☐ 要精密検査

平成 年 月 日

様

子宮頸がん精密検査受診のお知らせ

平成 年 月 日に受診された子宮頸がん検診の結果、精密検査が必要です。

できるだけ早く精密検査を受けてください。

初期は症状がありませんが、放っておくと取り返しがつかなくなることもあります。

子宮頸がんの初期には、全く症状がないのが普通です。

がんが進行すると、月経時以外の出血、性行為の際の出血、茶褐色や黒褐色のおりものの増加、といった症状があります。

早期に治療すれば子宮を摘出せずに完治できますが、進行すると死に至ることもあります。

子宮頸がんの多くは自覚症状がないので、精密検査が必要と判定されたら自覚症状がなくても必ず精密検査を受けてください。

精密検査を受けないと、がん検診の意義はなくなってしまいます。

- 精密検査には、次のものを忘れずに持参してください。
 - ・紹介状【子宮頸がん精密検査依頼書 兼 結果報告書（3枚複写）】
 - ・健康保険証 ※精密検査にかかる費用は、個人負担で、医療保険が適用されます。
- 精密検査を受ける際の手続きについては、直接医療機関にお尋ねください。
- 精密検査の結果が、担当医から、子宮頸がん一次検診実施機関と〇〇市（町）へ返送されますので、あらかじめご了承ください。

問合せ先（一次検診実施機関）

電話

子宮頸がん精密検査依頼書 兼 結果報告書

平成 年 月 日

精密検査実施医療機関の長 様

一次検診実施機関名及び所在地

医師名

印

次の方は子宮頸がん検診の結果、要精密検査となりましたので、御高診の上御指導をよろしくお願いいたします。
 なお、お手数をおかけしますが、本状下段の精密検査結果報告書に記入の上、3枚複写の②を一次検診機関に、
 ③を〇〇市町に御送付くださるようお願いいたします。

氏名	生年 月 日	☐ 明治 ☐ 大正 ☐ 昭和 ☐ 平成 年 月 日 (歳)
住所 (〒)		
検診日	平成 年 月 日	細胞診判定 (1. ベセスダ分類 2. 日母分類)
一次検診機関名		ベセスダ分類
判定可能・不可能	☐ 判定可能 ☐ 判定不可能	☐ NILM ☐ ASC-US ☐ ASC-H ☐ LSIL ☐ HSIL ☐ SCC ☐ AGC ☐ AIS ☐ Adeno Ca. ☐ Other
標本状態	☐ 適正 ☐ 不適正	日母分類
		☐ I ☐ II ☐ III a ☐ III b ☐ IV ☐ V

子宮頸がん精密検査結果報告書

貴院カルテ番号		
検査結果	1. コルポスコピー検査 (□実施しない ・ □実施した 平成 年 月 日)	
	2. 細胞診検査 (□実施しない ・ □実施した 平成 年 月 日)	
	結果	ベセスダ分類
		☐ NILM ☐ ASC-US ☐ ASC-H ☐ LSIL ☐ HSIL ☐ SCC ☐ AGC ☐ AIS ☐ Adeno Ca. ☐ Other
		日母分類
		☐ I ☐ II ☐ III a ☐ III b ☐ IV ☐ V
	3. 組織検査 (□実施しない ・ □実施した 平成 年 月 日)	
	結果 ()	
	4. その他 (□実施しない ・ □実施した 平成 年 月 日)	
	検査法 () 結果 ()	
診断区分	A. 確定できず	☐ 確定できず ※コルポスコピーや細胞診で所見があり、組織診を実施していない又は組織診で所見がない場合には、「確定できず」を選んでください。
	B. 異常なし	☐ 異常なし ☐ 良性病変のみ
	C. 異形成	☐ 高度異形成 ☐ 中等度異形成 ☐ 軽度異形成 ☐ 腺異形成
	D. 悪性腫瘍	☐ 上皮内がん ☐ 微小浸潤扁平上皮がん ☐ 扁平上皮がん ☐ 上皮内腺がん ☐ 微小浸潤腺がん ☐ 腺がん
		☐ その他の原発性上皮性腫瘍 ()
☐ その他の原発性腫瘍 () ☐ 続発性腫瘍 ()		
その後の処置	☐ なし	
	☐ 定期的に経過観察	
	☐ 治療予定 (□要手術 □その他:)	
	☐ 手術施行済み (平成 年 月 日)	
精検に伴う偶発症の有無	☐ 他院に紹介 (平成 年 月 日 医療機関名)	
	☐ あり () ☐ なし	
記載日	平成 年 月 日	医師名 印

“20歳から、子宮頸がん検診を”

受けましょう。

「20歳から、子宮頸がん検診を受ける意義」

子宮の出口（子宮頸部）にできる子宮頸がんは、20歳代をピークに、50～60歳代の女性の間で増加しています。しかし、子宮頸がんはがん化をすすめるおそれのある状態（異形成）で発見でも、早期に検診を受けると早期発見が可能です。子宮頸がんは、ほとんどの場合、初期には痛みや出血もなく、自分では気づくことができません。ではなぜ、少なくとも52年に1回は検診を受ける必要があるのでしょうか。

「子宮頸がんの検診は、癌の発生を予防する「予防的」です」

子宮頸がんの検診は、癌の発生を予防する「予防的」です。内服薬や手術など、癌の治療を受けることができません。早期発見は、たとえがん化した場合でも、子宮の出口の癌を切除し、子宮を残すことが、癌にはほとんどありません。早期発見は、癌を予防する一歩前進です。

「子宮頸がんの検診は、癌の発生を予防する「予防的」です」

おなじみの検診で受ける子宮頸がん検診は、検診費用の一部または全部が助成金で負担されているので、検診を受けることが可能です。2種類の検診方法があります。

「1. 異形成の検診（HPV検査）」

異形成の検診は、子宮頸がん検診の検診方法です。異形成の検診は、子宮頸がん検診の検診方法です。異形成の検診は、子宮頸がん検診の検診方法です。

「2. がんの検診（細胞診）」

がんの検診は、子宮頸がん検診の検診方法です。がんの検診は、子宮頸がん検診の検診方法です。がんの検診は、子宮頸がん検診の検診方法です。

「子宮頸がん検診を受ける意義」

20、25、30、35、40歳の女性は、各都府県から発行される「子宮頸がん検診券」を1枚ずつ持参する必要があります。詳しくは市町村の保健課にお問い合わせください。

「子宮頸がん検診を受ける意義」

お住まいの市町村の保健課に申し込むと、検診券が交付されます。検診券は、検診を受ける際に必要です。詳しくは市町村の保健課にお問い合わせください。

「子宮頸がん検診を受ける意義」

お住まいの市町村の保健課に申し込むと、検診券が交付されます。検診券は、検診を受ける際に必要です。詳しくは市町村の保健課にお問い合わせください。

「子宮頸がん検診を受ける意義」

お住まいの市町村の保健課に申し込むと、検診券が交付されます。検診券は、検診を受ける際に必要です。詳しくは市町村の保健課にお問い合わせください。

「子宮頸がん検診を受ける意義」

お住まいの市町村の保健課に申し込むと、検診券が交付されます。検診券は、検診を受ける際に必要です。詳しくは市町村の保健課にお問い合わせください。

「子宮頸がん検診を受ける意義」

お住まいの市町村の保健課に申し込むと、検診券が交付されます。検診券は、検診を受ける際に必要です。詳しくは市町村の保健課にお問い合わせください。

「子宮頸がん検診を受ける意義」

お住まいの市町村の保健課に申し込むと、検診券が交付されます。検診券は、検診を受ける際に必要です。詳しくは市町村の保健課にお問い合わせください。

「子宮頸がん検診を受ける意義」

お住まいの市町村の保健課に申し込むと、検診券が交付されます。検診券は、検診を受ける際に必要です。詳しくは市町村の保健課にお問い合わせください。

「子宮頸がん検診を受ける意義」

お住まいの市町村の保健課に申し込むと、検診券が交付されます。検診券は、検診を受ける際に必要です。詳しくは市町村の保健課にお問い合わせください。

「子宮頸がん検診を受ける意義」

お住まいの市町村の保健課に申し込むと、検診券が交付されます。検診券は、検診を受ける際に必要です。詳しくは市町村の保健課にお問い合わせください。

「子宮頸がん検診を受ける意義」

お住まいの市町村の保健課に申し込むと、検診券が交付されます。検診券は、検診を受ける際に必要です。詳しくは市町村の保健課にお問い合わせください。

「子宮頸がん検診を受ける意義」

お住まいの市町村の保健課に申し込むと、検診券が交付されます。検診券は、検診を受ける際に必要です。詳しくは市町村の保健課にお問い合わせください。

「子宮頸がん検診を受ける意義」

お住まいの市町村の保健課に申し込むと、検診券が交付されます。検診券は、検診を受ける際に必要です。詳しくは市町村の保健課にお問い合わせください。

「子宮頸がん検診を受ける意義」

お住まいの市町村の保健課に申し込むと、検診券が交付されます。検診券は、検診を受ける際に必要です。詳しくは市町村の保健課にお問い合わせください。

Q&A

子宮頸がんについて

Q 子宮頸がんの原因はなんですか？

子宮頸がんは、セックスにより感染するヒトパピローウイルス（HPV）といわれるウイルスが原因で発生します。HPVは、ほとんどの場合、感染しても問題ありません。しかし、まれに、感染したウイルスが、子宮頸部の細胞に感染し、がん化することがあります。

Q HPVに感染すると子宮頸がんになるの？

HPVに感染しても、ほとんどの場合は、がん化することはありません。HPVは、ほとんどの場合、感染しても問題ありません。しかし、まれに、感染したウイルスが、子宮頸部の細胞に感染し、がん化することがあります。

Q コンドームで予防はできるの？

HPVの子宮頸がんへの感染は、性行為の際に感染することがあります。コンドームは、感染のリスクを減らすことができます。しかし、コンドームだけでは、感染を完全に防ぐことはできません。

Q 子宮頸がんを予防するには？

子宮頸がんは、がん化することもあるウイルスの感染によって発生します。予防するためには、感染したウイルスを早期に発見し、治療を受けることが重要です。また、セックスをするときは、コンドームを使用することが大切です。

検診は2年に1度は受けましょう。

子宮頸がんの検診は、医療機関で行います。

検診の2種類の受診方法があります。

① 検診を受ける方は、人間ドックに含まれる「子宮頸がん検診」を受けましょう。

② 検診を受ける方は、人間ドックに含まれる「子宮頸がん検診」を受けましょう。

20～30代に多い子宮頸がんについて

あなたはどのくらい知っていますか？

- 子宮頸がんの原因は何？
- セックスと子宮頸がんの関係は？
- まだ若いから検診を受けなくてもいい？

子宮頸がんは、セックスにより感染するヒトパピローウイルス（HPV）が原因で発生します。HPVは、ほとんどの場合、感染しても問題ありません。しかし、まれに、感染したウイルスが、子宮頸部の細胞に感染し、がん化することがあります。